

生活単元学習指導案

平成〇年〇月〇日〇曜日〇校時
中学部全員 男子11名 女子11名 計22名
場 所 中学部2年教室、調理実習室
指 導 者 中 学 部 教 官 ○ 名

1 単元 校外宿泊学習（えびのキャンプ）

2 単元について

(1) 単元設定の理由

校外宿泊は、前単元の校内宿泊の経験を生かしながら、家庭や学校を離れ、教師や友達と一緒に山間のキャンプ施設において寝食を共にする中で、身辺処理能力を高めたり、友達関係を深め仲間意識を持ったりできる場であるとともに、夏の自然に触れられる場でもある。

ところで、校外宿泊については、1年生は初めてで、2、3年生はほとんど2、3回目であるが、日ごろの生活と異なる環境で新鮮味があり、友達と一緒に活動したり自分の力を試したりできるキャンプへの興味・関心は高い。また、前単元「校内宿泊学習」を通して、掃除や、荷物の整理、入浴など自分の身の回りのこと自発的に取り組もうとする態度が身に付いてきつつある。しかし、家庭では自然の中で宿泊して過ごす経験が少なかったり、このように環境が変わると、どのように行動して良いか分からず依存的になり自分の身の回りのことにも自発的に取り組めなかったりする。また、校内宿泊での係活動の様子を見てみると1年生は活動の見通しが持てないために自分から活動しようとすることが少なかったり、自分の役割がよく分からずそのまま活動していたりする。また、2、3年生の中にはリーダーとなって主体的に活動する生徒もいるが、まだ全体の中での自分の役割を意識したり、友達と協力して活動したりすることが少なかったりしている。

そこで、本単元では、まず昨年のVTRを見て、活動内容や施設の様子等を知ったり（思い出したり）、日程表や学習計画表などを作ったりして、校外宿泊について大まかなイメージを持たせていきたい。次に、学年を解いた縦割りの班を編成し、班ごとに当日の活動の準備や調理、持ち物の整理、道具の準備などを行うことにより、自分の役割を意識しながら主体的に活動する態度や自分の身の回りのことを自発的に行う態度を身に付けさせてていきたい。

具体的には、生徒の興味・関心を考慮して設定した係や献立を四つの班で分担して、それぞれの班で役割を決めて準備をしたり、練習したりしながら班員が見通しを持って、自分から進んで活動できるようにする。また、役割分担した活動とともに、自分の持ち物の整理、使った道具の始末など身の回りのことも指導していくことにより、宿泊当日自発的に活動できるようにしていく。さらに、自然を取り入れたゲームを考えたり、キャンプファイヤーの練習では虫の音などの効果音を用いたり、調理では、かまどを作って煮炊きをするなどしてキャンプ場の雰囲気をつかませるようにする。これらの学習を基に、生徒たちは、当日自分のことは自分でしたり、様々な活動を友達と協力して行ったりすることにより、成就感・満足感を味わえるとともに、自然の中で伸び伸びと活動することにより、自然の様子等への関心を高めていけると考える。

このような学習を通して、生徒たちは、家庭や学校など限られた場だけではなくいろいろな場で、自分や友達の役割を意識して活動したり主体的に活動したりするようになり、教師や友達あるいはいろいろな人とのかかわりが豊かになっていくと考える。

ポイント

行事単元の場合には、当日の活動からねらえること（ここでは校外宿泊当日の活動）を書くことがある。

生徒の実態

前単元「校内宿泊」と関連させて、宿泊の大まかな実態を述べる。

- ・興味・関心
- ・身の回りのこと
- ・役割分担した活動など

指導観

2段落の実態を受けて、この単元でねらうこと（身に付けさせたいこと）、具体的にどんな活動でねらいを達成していくか述べる。



今後の展望

本単元の学習を通して、今後の生徒の生活にどのように生かされていくのか述べる。

(2) 生徒の実態

| 氏名 (学年、性別) | N. Y (1年、男) | N. A (1年、女) | M. T (2年、男) |
|-----------------------------------|--|---|---|
| C A | 12: 8 | 13: 0 | 13: 5 |
| MA (IQ) | 3: 9 (32) | 7: 0 (62) | 4: 3 (37) |
| S A (SQ) | 5: 6 (45) | 6: 0 (50) | 4: 8 (35) |
| 校外宿泊への興味・関心 | ・キャンプの経験はないが、宿泊を楽しみにしている。 | ・キャンプの経験はないが、宿泊を楽しみにしている。 | ・今年の日時や昨年経験した活動内容等を話題にするなど楽しみにしている。 |
| 基本的生活習慣 ・身辺処理 ・荷物の整理 | ・大まかにはできるが、細かい部分は雑である。 ・持っていく物は分かるが、整理が十分できない。 | ・大まかにはできるが、細かい部分は雑にすることがある。 ・持っていく物は分かるが、整理せずに始末することもある。 | ・一人でできるが、言葉掛けを待つことが多い。 ・荷物を取り出したり入れたりが雑で他人の物と間違うこともある。 |
| 食事作り ・献立 ・買物 ・調理 ・後始末 | ・簡単な献立名は分かるが、それに必要な材料はあいまいである。 ・買う品物は見付けられるが、数や量はあいまいである。 ・皮むき器で大まかにむけるが、皮が残っていることが多い。包丁は使えない。 ・缶切りは使えない。 ・鍋にそっと材料を入れたり炒めたりできる。 ・食器を洗うが、洗剤が残っている。ふくのも不十分。 | ・簡単な献立名やそれに必要な材料は分かる。 ・買う品物は見付けられるが、数や量は教師に確認して取る。 ・皮むき器や包丁は使えるが、大ざっぱで皮が残っていたり大きめの切り方になったりする。 ・缶切りは使えない。 ・鍋にそっと野菜を入れたり炒めたりできる。 ・汚れや洗剤を落とすよう丁寧に洗う。ふいたり始末したりする活動は雑になる。 | ・特定の献立名やそれに必要な材料は幾つかは分かる。 ・自分から見付けるのは難しく、教師に確認する。 ・用具の使い方は雑な面が多い。野菜の千切りはゆっくりだができる。 ・缶切りは一人で使える。 ・鍋の熱さを気にして、こわごわ野菜を入れる。 ・食器を洗うが、洗剤が残っている。ふくのも不十分。 |
| 校内宿泊での係活動の様子 | ・ゲーム係 ・班の成員や自分の役割が分かり、「動物ピング」の動物の絵に色を塗ることができた。しかし、まだ全体の中での役割は意識できない。 ・自分から活動しようとすると、最後まで共同して活動するのは難しい。 | ・集会係 ・班の成員は大まかに分かっているが、自分の役割は、指示されると分かる。他の係や全体の中で役割意識はできない。 ・自分から活動することは少ないが、自分の活動が分かると丁寧にできた。 | ・レクリエーション係 ・自分の役割については分かっており、自分のやりたいレクリエーションなど積極的に発表した。 ・教師の言葉掛けで自分の役割を果たすことができた。 |
| 言語 | ・簡単な文章で話をするが、発音がはっきりせず、あいまいなことがある。 | ・日常生活に必要な会話はできる。簡単な文は、平仮名と漢字で書ける。 | ・一語文がほとんどで、おうむ返しが多い。関心のあることは自発的に話す。 |
| 数量 | ・20までの数は分かるが、それ以上はあいまいである。 ・時間には興味があり、○時が言えるものもある。 | ・和が10までの足し算は具体物を使ってできる。 ・時計は、○時単位で読むことができる。 | ・和が10までの足し算は具体物を使ってできる。 ・時計は、○時単位で読むことができる。 |
| 備考 | | ダウン症候群 | 自閉児 |

・CA: 平成〇年〇月〇日現在

・IQ: 辰見ビネー式知能検査 △年生は平成〇年〇月, △年生は平成〇年〇月, △年生は平成〇年〇月に実施

・SQ: S-M社会生活能力検査 △年生は平成〇年〇月, △年生は平成〇年〇月, △年生は平成〇年〇月に実施

生徒の実態

2(1)で述べた大まかな実態をより詳細に述べるとともに、単元のねらい、意義・価値などから必要な項目を挙げて述べる。

ポイント

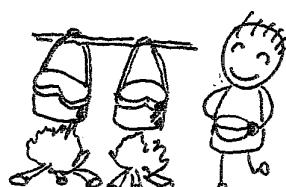
- ・それぞれの項目ごとに観点を決めて、できるだけ同じ観点から述べるのが望ましい。
- ・肯定的な表現で述べる。
- ・授業の際の手だけでとなり得るような観点で述べる。

ここでは

まず、宿泊特にキャンプへの興味・関心を述べた。

次に、本単元の中心的活動内容に関する実態を述べた。ここでは、前単元「校内宿泊学習」と関連させてその時の様子を述べてある。

- ・食事作り
 - ・係活動の様子
- 最後に、この単元に必要な言語・数量の実態も押さえた。



(3) 指導上の留意点

- 期日や日程・宿泊までの学習内容や毎時間の見通しが持てるように、日程表や学習計画表を作成し学習の中で用いていくとともに、教室などに提示しておき生徒たちの目に触れる機会を多く設定する。
- 校外宿泊の経験のある2、3年生をリーダーとし、主体的に計画を立てたり活動したりさせるようにする。
- 生徒の学年や性別、発達段階などを考慮して班を編成するとともに、班の友達との仲間意識を持たせるために、係別活動や調理など班での活動を多く設定する。
- 各時間での指導に当たっては、生徒の興味・関心等を考慮して、活動内容や教材・教具を工夫し、意欲的に活動に取り組めるようにする。
- 係別活動や調理など班での活動を行う際には、他の班の活動の様子を知らせるようにし、他の班との関連や自分の役割に気付かせるようにする。
- キャンプファイヤーの練習では、暗い部屋の中で虫の音などの自然の音を聴かせながら行ったり、調理では、キャンプ場の施設に合わせてかまどを作り、おかずや御飯を煮炊きしたりして、臨場感を持たせて雰囲気をつかませ、自然の中での活動にも目を向けさせるようにする。
- 火や包丁などの用具を使う際には、安全面に十分配慮するようにする。
- 他教科との関連を図りながら、用具名や活動内容、日程、レクリエーションなどと関連させて指導を行うようにする。
- 学校での様子を連絡帳や週報等で知らせ、家庭と連携を図りながら学校で練習したことを家庭でも取り組んでもらうようにする。

留意点

2(1)の指導観で述べた具体的な活動を、2(2)の実態に応じて、配慮していくことや具体的な手立てなどを述べていく。

ポイント

単元全体を通して、どの時間にも留意していくことを中心に述べていく。下記のような視点がポイント。

- 「～の活動では」のように、特にある活動を行う際に留意すること
- 班編成の仕方
- 場の設定
- 安全面、衛生面
- 他教科、領域との関連
- 家庭との連携など

ここでは

2(1)～(3)を受けて、本单元で生徒に身に付けさせたいことを教師の立場（～を味わわせる、養うなど）で述べる。

- 役割を意識し、主体的活動
- 自発的な活動
- 自然への興味・関心

校内宿泊後の单元であることやキャンプ場という場を意識した目標を設定している。

ポイント

活動のまとまりごとに、「次」でくくる。

ここでは

目標にある「自分の役割を意識させる」ために、特に二次では、縦割りの班ごとの活動を多く設定した。

3 目標

- 校外宿泊に向けて係分担し、活動の計画を立てたり準備をしたりすることを通して、自分の役割を意識し、主体的に活動に参加できるようにするとともに友達と共に活動する喜びを味わわせる。
- 荷物や道具の準備や運搬、買物や調理の練習やキャンプ場での活動を通して日常生活における基本的な技能や態度を高め、自発的な態度を養う。
- 野外での活動や散策等、自然と触れ合う活動を通して、自然への興味・関心を高めるようにする。

4 指導計画（総時数46時間）

| 次 | 主な学習活動・内容 | 時間 | 資料・準備 |
|-------------|---|---------------------------------|---|
| 一 1 | 校外宿泊について話し合う。 (1) 昨年の校外宿泊を知る（思い出す）。 (2) 校外宿泊の計画を立てる。 ・行き先・期日調べ、日程表作り (3) 準備や練習する内容を話し合う。 ・学習計画表、班決め、係分担 | 9 | ・VTR ・こよみ ・日程表 ・しおり ・班の分担表 ・絵カード |
| 二 2 | 校外宿泊の準備や練習をする。 (1) 宿泊の準備をする。 ・班ごとの準備（ゲーム係、生活係など） ・持ち物や道具の準備 ・買物 (2) 宿泊の練習をする。 ・調理やキャンプファイヤーの練習 3 校外宿泊（えびのキャンプ）に参加する。 | 34 本時 (17/34) (11) | ・宿泊用具 ・カセット ・調理用具 ・エプロン ・トーチ ・キャンプ道具一式など |
| 三 4 5 | 道具の後始末をする。 校外宿泊の反省をする。 | 3 | ・VTR ・日程表 |

5 本時の学習 (26/46)

(1) 目 標

○ 自分の役割が分かり、友達と協力しながら調理をすることができる。

(個人目標・・・ごはん、サラダグループ)

| 氏名 | 個 人 目 標 |
|--------------|--|
| M. K | ・ N. Aと声を合わせて米や水を量ったり、米をなるべくこぼさないようにして米をといだりすることができる。 |
| N. A | ・ M. Kと声を合わせて米や水を量ったり、水が澄むのを確認しながらM. Kと交替して米をといだりすることができる。 |
| N. Y | ・ レタス一枚ずつ丁寧にはがして洗い、Y. NとH. Kに渡すことができる。 |
| Y. N K. M | ・ N. Yからレタスを受け取り、一口大になるように注意しながら、レタスをちぎることができる。 |

(2) 指導に当たって

生徒たちは、これまで昨年のVTRを見たり、日程表や学習計画表を作ったりして、校外宿泊（えびのキャンプ）についての大まかなイメージを持つとともに、「早く行きたい」という意欲も高まってきている。また、四つの班に分かれて、ゲーム係・キャンプファイサー係・生活係・集会係をそれぞれで分担し、役割を決めたり準備したり練習をしたりしてきた。その中で、自分の班の友達や仕事が分かったり、それぞれの班が協力して準備することでキャンプができることが分かったりして、自分から活動するようになってきている。さらに、当日の夕食や朝食の献立を決めて、グループに分かれて作り方を調べたり、生徒の興味・関心や実態を考慮して役割を分担したり、近くのスーパーに行き材料を買うなどしたりして調理（御飯・カレー・サラダ）への意欲も高まっている。

そこで、本時ではグループごとに、カレー、御飯やサラダの作り方、かまどの作り方を確認して、自分の役割が分かり友達と協力しながら活動できるようになしたい。また、かまどを作って煮炊きをしたり、会食は外でしたりしてキャンプの雰囲気をつかませたい。

具体的には、全体でキャンプ場での食事の準備をしているVTRを見たり、グループの献立の分担や活動を発表し合うことにより、お互いの役割を意識させるようとする。その後、グループに分かれて、作り方や前時に分担した係を確認して、活動や自分の役割に見通しを持たせるようとする。その際、最後まで役割意識を持って活動に取り組めるように、道具の準備から後始末までを責任を持ってさせるようとする。また、実際にかまどを作ったり、調理をしたりすることでそれぞれの活動にも慣れさせるようとする。その際、一人で活動しにくい生徒や途中で活動をやめてしまう生徒を考慮して、2~3人ずつ同じ活動をさせるとともに、お互いに声を掛け合ったり、教え合ったりして活動させ協力してできるようになしたい。また、皮むき器には持つところに印を付けておいたり、「包丁は人に向けない、使わないときにはぬれぶきんの上に置く」ようにしたりして、安全にしかもスムーズに活動できるようにする。火を扱う際には、火の強さを調整したり、押したりふざけたりするとやけどなどをすることを知らせたりして、安全面の注意をしていくようにしたい。

注 意

本時の学習以下は、実際は、ごはん、サラダグループとカレーグループの二つの班の指導案があったが、ここでは例としてごはん、サラダグループのみ記載している。

ここでは

本時の目標は、実際に即して具体的に書く。
また「～できる」というように、生徒の目標として述べる。

ポイント

個人目標は個人の実態を踏まえて、活動における目標を具体的に述べる。ここでしっかりと押さえておかないと、実際の授業で一人一人を生かすことはできない。

ここでは

1段落では、本時までの活動内容とその活動における生徒の様子を態度・意欲・技能を中心に述べる。

2段落では、本時の活動のねらいを書く。

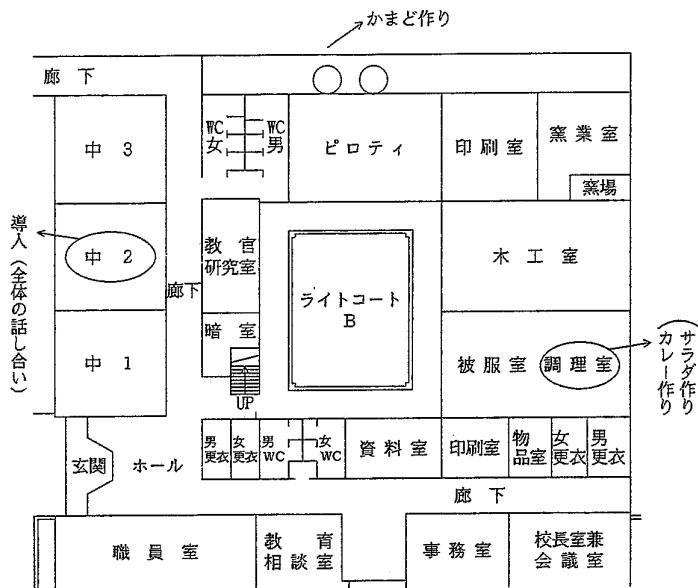
3段落では、本時の活動のさせ方について流れに沿って具体的に書くとともにその際の配慮事項なども述べる。



(4) 評 價

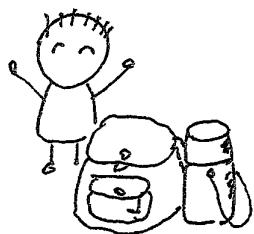
自分の役割が分かり、友達と協力しながら調理することができたか。

(5) 場 の 設 定



※ 会食は中2教室、横のライトコートにて。

(雨天時：中2教室)



(3) 実 際 <ごはん、サラダグループ>

| 過程 (時間) | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 資料・準備 |
|--------------|--|--|--|
| 導入 (7分) | <p>1 本時の学習内容を確認する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 調理をすることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 協力して 調理をしよう </div> | <ul style="list-style-type: none"> 班ごとにメンバー表を用いて確認させることで、自分の係や班員を意識させる。 昨年のVTRで、調理の様子、特にかまどを用いて行っていることに注目させ、野外での調理の練習であることを確認させる。 それぞれの班の分担を確認することにより、みんなで協力して作ることを意識付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> メンバー表 学習計画表 VTR 目当てカード |
| 本時 (40分) | <p>2 調理をする。 (1) 作り方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 絵カードを並べる。 (2) 分担を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ごはん係 サラダ係 (3) 用具や食器を準備する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> エプロン着用と手洗いをしっかりするように言葉掛けをする。 材料の実物や絵カード、手順表を準備し、作り方を発表するときの手掛けりとさせる。 興味・関心や技能面を考慮して役割を分担し、意欲的に取り組めるようにする。 手順表に名前カードをはるようにして、分担の意識を高める。 各係に教師がつき、個に応じて援助したり、安全、衛生面に常に気を配ったりする。 包丁は人に向けないように、また使わないときはぬれふきんの上に置くように言葉掛けし、安全に扱わせるようとする。 皮むき器の上になる方に印を付け、握り方が分かるようにする。 各グループの代表が、作ったものや頑張った点を発表し、互いに認め合い、満足感を味わえるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> エプロン せっけん タオル 材料 絵カード 手順表 名前カード 用具 食器 ぬれふきん |
| 展開 (108分) | <p>(4) 調理をする。</p> <p>(5) 盛り付け、配ぜんをする。</p> <p>3 会食をする。</p> <p>4 後始末をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 皮むき器の上になる方に印を付け、握り方が分かるようにする。 各グループの代表が、作ったものや頑張った点を発表し、互いに認め合い、満足感を味わえるようにする。 自分が使ったものは責任を持って片付けるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 洗剤 スポンジ |
| 終末 (5分) | <p>5 反省をする。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに反省させ、キャンプ当日に生かせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> メンバー表 |

導入

本時の活動を確認する過程。展開での活動に興味・関心や意欲を持ったための具体的な活動を設定する。

展開

本時の中心となる過程である。全ての生徒が主体的、積極的に活動できるように設定する。

ポイント

- 活動で考慮したいこと
- 一人一人ができる
 - 具体的、直接的である

指導上の留意点

- 生徒が主体的に活動できるようにするための手立てを具体的に述べる。
- 活動の取り上げ方
 - 教材・教具の工夫
 - 教師のかかわり方
 - つまずきや個への対応
 - 安全、衛生面への配慮

終末

本時の自分の取り組みを振り返る過程である。